

「スキー・スノーボード研修」運営の現状と課題： アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開

著者名(日)	松林 幸一郎, 狐塚 賢一郎
雑誌名	駿河台大学教職論集
巻	特別増刊号
ページ	93-104
発行年	2017-10
URL	http://doi.org/10.15004/00001808



「スキー・スノーボード研修」運営の現状と課題 —アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の展開—

松林 幸一郎・狐塚 賢一郎

1. はじめに

「スキー・スノーボード研修」(2・3年次/2単位)は、現代文化学部2013年度設置カリキュラムでは専攻科目群、コース共通科目フィールド・スタディ科目に位置付けられている。「フィールド・スタディ」は主な教場を学外に求めた体験重視型の科目であり、大学キャンパスから一歩踏み出し、地域社会、地域の歴史や文化及び自然を教材として、あるいは海外に飛び出して、体験的に学習することを目的としている。フィールド・スタディ科目からは2単位以上の単位を修得する必要がある¹⁾。また現代文化学部設置の保健体育教職課程では「教科に関する科目」第1群体育実技に位置付けられている²⁾。

そのため「スキー・スノーボード研修」では、

- ・学外の教場(スキー場)を利用し、雄大な自然環境の中でシーズンスポーツとしてのスキー・スノーボードの楽しさを体感する。
- ・シーズンスポーツとして技術を身につけることで、生涯スポーツとして年齢を問わず、長く当該スポーツを楽しむことができる基礎的な技能を身につける。
- ・学外での宿泊を伴った集団生活を通して、リーダーシップ、メンバーシップを涵養する。
- ・スキー場という特殊な教場環境で、安全で楽しいスキー・スノーボードの運動学習指導の方法を学ぶ。ことを研修の目的としている。

本論考は、現行の「スキー・スノーボード研修」運営をアクティブ・ラーニングの観点から検証し、問題点・改善点を抽出し、今後の改善の基礎とすることを目的とする。

2. アクティブ・ラーニングの導入

本授業へのアクティブ・ラーニング導入に際し、まずアクティブ・ラーニングの定義、当該授業へのアクティブ・ラーニング導入の意義について下記の通り整理する。

中央教育審議会(2012)はその答申の中で「アクティブ・ラーニング」の定義、大学教育におけるアクティブ・ラーニングの必要性を下記のように示しており、内閣(2013)は教育振興基本計画の閣議決定において、教職課程におけるアクティブ・ラーニングの重要性を下記のように示している。

(1) アクティブ・ラーニングの定義

教員による一方向的な講義形成期の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的な能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのディベート、グループ・ディスカッション等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。³⁾

(2) 大学教育におけるアクティブ・ラーニング

学士課程教育の質的転換

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し会を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。すなわち個々

の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習は実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。⁴⁾

(3) 教職課程におけるアクティブ・ラーニングの重要性

アクティブ・ラーニングに関する指導力や適切な評価方法は、全ての学校種の教員が身につけるべき能力や技能であり、教職課程において、これらの育成が適切に行われるよう、児童生徒の深い理解を伴う学習過程やそのための各教科の指導法に関する授業に取り入れていくことが必要である。また、アクティブ・ラーニングの視点からの教育の充実のためには、教員養成課程における授業そのものを、課題探究的な内容や、学生同士で議論をして深め合うような内容としていくことも求められる。⁵⁾

(4) 「スキー・スノーボード研修」に用いるアクティブ・ラーニングの形態

アクティブ・ラーニングの学びの特徴については以下の3つの柱があげられている。

- ①アクティブ・ラーニングの習得・活用・探求という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ②他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ③子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。⁶⁾

田中(2016)は特に1)の学習プロセスに着目し、アクティブ・ラーニングを①習得学習、②活用学習、④探求学習の3つの学習レベルの積み上げとしてとらえている。⁷⁾

本「スキー・スノーボード研修」では、事前講義等でスキー、スノーボードに必要な基礎的・基本的な知識、マナーを習得した上で、実際のゲレンデでの確に知識や技能を利活用できる態度、表現力、応用力を涵養する観点から、①習得学習を基礎とし、②活用学習に発展させる授業展開を考えたい。

3. 授業運営のふりかえり

本授業では事前講義の中で、安全・円滑に集中講義に臨むための基礎的なスキー・スノーボードについての知識や日常的なトレーニングを通じての筋力・体力づくりを行っていった上で、2月中旬の集中講義(3泊4日)を実施している。シラバス等、授業の準備、授業運営については下記の通りである。

3.1 シラバス

履修学生は履修に際し、下記シラバスを参照した上で、それぞれの興味関心に応じて、フィールドスタディ科目の履修選択を行い、年度当初に事前登録を行う。2016年度シラバスは下記の通りであった。

科目名：スキー・スノーボード研修／スキー・スノーボード 単位数 2単位

サブタイトル：雪山でのスポーツ活動

講義内容：

- (1) 基本滑降技術の習得と指導法の研究
- (2) 講義

スキー発祥と発展・スキー技術の変化と用具の変遷・スキー場の環境問題

講義目標

- ①基本滑降技術のレベルアップ。
- ②安全で楽しい学習指導の方法を学ぶ。
- ③集団生活のあり方を体験し、リーダーシップ、メンバーシップを学ぶ。
- ④スキー場の環境問題を学び、今後の課題を検討する。

到達目標：主体性・理解力を養い、学校体育のスキー実習企画立案と安全指導ができる。

到達目標となる駿大社会人基礎力：主体性、行動力・実行力、常識力

関連科目：キャンプ・野外活動研修、観光学

テキスト・参考書等：全日本スキー連盟スキー教程(スキージャーナル社)

授業外における学習方法及び必要な時間：

トレーニングセンターを利用し、週1回2時間程度行い、実習までに体力を向上させる。

全日本スキー連盟スキー教程またはスノーボード教程を熟読し、技術の展開をマスターし実習に備える。

成績評価方法：

授業意欲・積極性 40点 技術テスト 20点 講義テスト 20点 レポート 20点

授業計画：

- 第1回 授業主旨説明, スキーの歴史
- 第2回 事前講義：バランス・トレーニング (個人トレーニング)
- 第3回 事前講義：トレーニング(巧緻性)
- 第4回 事前講義：トレーニング(脚筋力)
- 第5回 実習地のスキー場環境
- 第6回 集中授業：班分け, 基本動作
- 第7回 集中授業：(雪山の活用, 企画立案)
- 第8回 集中授業：基礎停止技術
- 第9回 集中授業：基礎回転技術プルークボーゲン
- 第10回 集中授業：(事故の防止, 安全管理)
- 第11回 集中授業：基礎回転技プルークターン
- 第12回 集中授業：基礎回転技術 パラレルターン初歩
- 第13回 集中授業：応用回転 パラレルターン
- 第14回 集中授業：応用回転技術 パラレルターンリズム変化
- 第15回 まとめ, 実技テスト⁸⁾

3.2 事前講義の展開

シラバスの前半5回分を事前講義とし、集中授業の前に学内で講義を行っている。授業では、下記のような授業内容での座学、集中講義に向けた個人での体力・筋力づくりを目的としたトレーニングの概要の説明、実習を学内トレーニングセンター等を用いて行っている。

現行「スキー・スノーボード研修」は選択科目であるため、受講意欲の高い学生が履修している。そのため、授業に臨む態度も真摯で、知識や技術を高める努力を怠らない点は履修者全般に見られる傾向である。

第1回 授業概要説明, スキーの歴史

第2回 事前講義：バランス・トレーニング (個人トレーニング)

第3回 事前講義：トレーニング(巧緻性)

第4回 事前講義：トレーニング(脚筋力)

第5回 実習地のスキー場環境

3.3 集中講義

3.3.1 集中講義実施スキー場・宿舎の選定

現行の「スキー・スノーボード研修」は、長野県戸隠スキー場を実習地として集中講義を行っている。戸隠スキー場を利用するメリットとしては下記の点が挙げられる。

- 1) 履修学生は現地集合としているが、新幹線停車駅の長野駅からのアクセスが比較的容易（長野駅から宿の送迎バスおよそ60分）であり、学生が集合しやすい。
- 2) 戸隠は平安時代より修験道の霊場として栄えた地域であり、戸隠神社をはじめとする山岳信仰の歴史は1000年を超えている。またスキー場としての歴史も50年を超えており、地域の特異な文化や歴史に触れることができる⁹⁾¹⁰⁾。
- 3) 長野県内でも最高の雪質でコースバリエーションが豊富であり、初心者が安心して滑走できるコースから上級者が身につけた技術を再確認できるコース、十分な滑走感を得ることのできるコースを有している。

また宿舎は戸隠スキー場のメインゲレンデである越水ゲレンデ近くの「山小舎 まるや」を利用しており、初心者が利用しやすいゲレンデへのアクセスが良く、中・上級者にとってもバリエーション豊かな各方面のゲレンデへのアクセスが容易となっている。



図1 戸隠スキー場ゲレンデマップ¹⁾

3.3.2 集中講義の概要

2016年度「スキー・スノーボード研修」集中講義は2017年2月19日（日）～22日（水）3泊4日で行われた。集中講義参加者23名であり、スキー選択者、スノーボード選択者の内訳は以下の通りである。

- 1) スキー選択者：初心者2名，初級者3名，中級者3名，上級者2名， 合計10名
- 2) スノーボード選択者：初心者5名，初級者3名，中級者3名，上級者2名， 合計13名

実習ではスキー（初心、初級班）・（中級、上級班）、スノーボード（初心、初級班）・（中級、上級班）の4班編成とし、90分を1時間帯とし、種目ごとに1班ずつ、計2班をスキー、スノーボードそれぞれ1名の指導者が指導し、それぞれの班のレベルにあわせた授業展開を行なっている。残りの2班はグループ行動し、指導者レッスンや自らの技術の振り返りを行いながら班員同士積極的に技術の意見交換をするなどし、アクティブ・ラーニングを実践している。この過程では、自らの技術を振り返ることはもちろん、他の班のメンバーの技術を観察し、アドバイスを与えることで、技術を言語化し、相手に伝える指導上の基礎的なコミュニケーションスキルを獲得・涵養することも意図している。

また学生個人の携帯電話、スマートホンなどで個人撮影を行い、宿舎での夜間の講義時間に大型テレビに投影し種目班全員で確認、意見交換を行いその日の振り返りと翌日の課題の確認を行っている。

ゲレンデ実習の運営としては、「指導者レッスン」「自習・学生による学び合い」の2つの形態の時間帯を設けて技能の修得を図っている。それぞれの時間帯の基本的な考え方は下記の通りである。

(1) 「指導者レッスン」の展開

午前、午後ともに各班90分ずつ「指導者レッスン」の時間をもっている。この時間帯では、下記のような目標、目的をもってレッスンを行っている。

- ・各個人に応じた技術指導のアドバイスを与え、技能の上達を図る。
- ・現在修得している技術を確認し、次の目標・課題を明確にし「自習・学生による学び合い」の時間の指針となるような指示・アドバイスを与える。
- ・事前授業や夜間の講義・ミーティングを通して確認している安全管理上の留意事項やスキー場でのマナー等を実際のゲレンデでの実習を通して確認・習得する。

(2) 「自習・学生による学び合い」の展開（アクティブ・ラーニング）

(1)の指導者レッスンをもとにして、午前、午後ともに各班90分ずつの自習・学生による学び合いの時間を持っている。この時間帯では下記の点を目標としている。

- ・「指導者レッスン」時に受けたアドバイス、課題をもとに自分の滑りを確認し、滑走距離を伸ばしながらスキー操作、スノーボード操作の感覚をつかむ。
- ・同一班のメンバー同士複数名で滑走しながら、お互いにアドバイスをしあい、技術や体の使い方を言語化することで整理し、メンバーの技能を伸ばすとともに自らの技能を振り返る。
- ・同一班のペア、3人グループなどでお互いのスマートホンなどを利用し個人撮影を行う。撮影された映像を教材として本人にフィードバックすることで的確な技術の客観視を行う。（映像は宿舎に戻ってからの夜間のVTRによる振り返りにも利用する）

3.3.3 ゲレンデ実習の実際（2016年度の振り返りを中心に）

ゲレンデでの実習の展開は下記の通りである。以下、スキー（初心、初級班）・（中級、上級班）、スノーボード（初心、初級班）・（中級、上級班）の4班に分けて整理する。

(1) 1日目の活動

集中講義第1日目は、履修者全員13時に長野駅東口集合後、宿の送迎バスにて宿舎に移動する。その後、17時より開校式を行い、19時から全体でレンタル用具の確認とサイズ合わせ、使用方法の説明などを行っている。ゲレンデでの実習は第2日目からとなる。

(2) スキー：初心・初級班 計5名

1) 2日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 基礎練習，午後 基礎回転

主な使用ゲレンデ：トガッキーコース（初心者コース）

活動概要（午前）：緩斜面での停止，初歩的なプルークボーゲン，ゲレンデ利用上のマナーエチケット，安全対策，リフトの乗車，下車方法

活動概要（午後）：緩斜面での停止，初歩的なプルークボーゲン，ゲレンデ利用上のマナーエチケット，安全対策，リフトの乗車・下車方法

(B) 夜間のミーティングでの活動

・スキー場でのマナー，エチケット，安全対策の確認

2) 3日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 プルークボーゲン，午後 プルークターン

主な使用ゲレンデ：トガッキーコース（初心者コース），スイートコース（初級者コース）、中社ゲレンデ（初級者コース）

主な活動（午前）：緩斜面での停止，初歩的なプルークボーゲン
中斜面での実践的なプルークボーゲン

主な活動（午後）：午前と同様

(B) 夜間のミーティングでの活動

・疲労状況の確認とストレッチング

・個人撮影されたVTRでの振り返りを通しての動きの確認

（特に前後左右の重心位置とバランス）

3) 4日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 総合滑走，午後 総合滑走

主な使用ゲレンデ：トガッキーコース（初心者コース）、お仙水コース（初中級コース）
越水中央バーン，中社ゲレンデ（初級者コース）

主な活動（午前）：プルークボーゲン、プルークターン、基礎的パラレルターン

主な活動（午後）：午前と同様

(B) 実技テスト

使用ゲレンデ：越水中央バーン（初級者コース）

テスト（課題）概要：制動技術，習得した技術でのスキーコントロールの確認

テスト結果：全員合格

4) 集中講義のふりかえり（スキー：初心・初級班）

初心者、初級者の本集中講義の目標は、技術の理論、安全対策、マナーなどを十分に理解した上でゲレンデをプルークボーゲン、プルークターン等を用いスピードをコントロールしながら安全に滑走することができる技術を身につけることであった。スキーをまったく初めて経験する履修者もいたが、4日間の集中講義で上記の目標を全員が達成し、基礎的なパラレルターンを習得するものも見受けられた。

当初の目標であった自律したスキーヤーとして以後生涯スポーツとしてスキーを楽しむための基礎的な技能、安全対策の習得が確認できた。

表1 集中講義タイムスケジュール (スキー：初心・初級班)

	9:00~10:30	10:30~12:00	13:30~15:00	15:00~16:30	19:30~21:00
1日目			13:00 集合	17:00 開校式	講義
2日目	基本練習	反復練習	基礎回転	基礎回転	VTRによる振り返り
3日目	ブルークボーゲン	反復練習	ブルークターン	基礎回転	VTRによる振り返り
4日目	総合滑走	反復練習	総合滑走	実技テスト	17:00 解放

指導者レッスン

自習学び合い

(3) スキー：中級・上級班 計5名

1) 2日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 基礎動作の確認，午後 基礎回転

主な使用ゲレンデ：越水中央バーン (初級者コース)，お仙水コース (初・中級者コース)
めのうコース (中級者コース)

主な活動 (午前)：基本動作の確認，ブルークボーゲン，シュテムターン

主な活動 (午後)：ブルークボーゲン，シュテムターン，横滑り

(B) 夜間のミーティングでの活動

・スキー場でのマナー，エチケット，安全対策の確認

2) 3日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 応用ターン，午後 総合滑走

主な使用ゲレンデ：越水中央バーン (初級者コース)，お仙水コース (初・中級者コース)
めのうコース (中級者コース)，白樺コース (中級コース)，
シルバーコース (上級者コース)，パラダイスコース (上級者コース)
チャンピオンコース (上級者コース)

主な活動 (午前)：シュテムターン，横滑り，パラレルターン

主な活動 (午後)：シュテムターン，横滑り，パラレルターン，急停止

(B) 夜間のミーティングでの活動

・疲労状況の確認とストレッチング

・個人撮影されたVTRでの振り返りを通しての動きの確認

(特に前後左右の重心位置とバランス)

3) 4日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 総合滑走，午後 総合滑走

主な使用ゲレンデ：越水中央バーン (初級者コース)，お仙水コース (初・中級者コース)
めのうコース (中級者コース)，白樺コース (中級コース)
シルバーコース (上級者コース)，パラダイスコース (上級者コース)
チャンピオンコース (上級者コース)

主な活動 (午前)：シュテムターン，横滑り，パラレルターン，急停止

主な活動 (午後)：午前と同様

(B) 実技テスト

使用ゲレンデ：白樺コース（中級コース）

テスト（課題）概要：習得した技術でのスキーコントロールの確認

テスト結果：全員合格

4) 集中講義のふりかえり（スキー：中級・上級班）

技術の理論及び実践を高いレベルでこなし、戸隠スキー場のほぼすべてのコースを安全に滑走できる技術を身につけることができた。安全対策、マナーなども十分に理解し、実践することができるようになっている。今後の課題としては、修得した安全対策、マナーなどの知識、スノーボードの技能を指導者として伝える技能を身につけることが望まれる。

表2 集中講義タイムスケジュール（スキー：中級・上級班）

	9:00~10:30	10:30~12:00	13:30~15:00	15:00~16:30	19:30~21:00
1日目			13:00 集合	17:00 開校式	講義
2日目	足慣らし	基本動作の確認	基礎回転	基礎回転	VTRによる振り返り
3日目	振り返り	応用ターン	基礎回転	総合滑走	VTRによる振り返り
4日目	振り返り	総合滑走	総合滑走	実技テスト	17:00 解散

指導者レッスン

自習学び合い

(4) スノーボード：初心・初級班 計8名

1) 2日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 基本練習，午後 基礎回転

主な使用ゲレンデ：トガッキーコース（初心者コース）

主な活動（午前）：基本動作，登行，スケーティング，直滑降，停止

主な活動（午後）：フロントサイド，バックサイド，木の葉滑

(B) 夜間のミーティングでの活動

- ・スキー場でのマナー，エチケット，安全対策の確認

2) 3日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午後 スライドターン，午後 スライドターン

主な使用ゲレンデ：トガッキーコース（初心者コース），越水中央バーン（初級者コース）

主な活動（午前）：フロントサイド，バックサイド，木の葉滑，横滑り

主な活動（午後）：基礎スライドターン

(B) 夜間のミーティングでの活動

- ・疲労状況の確認とストレッチング
- ・個人撮影されたVTRでの振り返りを通しての動きの確認
(特に前後左右の重心位置とバランス)

3) 4日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 総合滑走，午後 総合滑走

主な使用ゲレンデ：トガッキーコース（初心者コース），越水中央バーン（初級者コース）

お仙水コース（初中級者コース）

主な活動 (午前) : 基礎スライドターン, フロントサイド停止, バックサイド停止
 主な活動 (午後) : 基礎スライドターン, フロントサイド停止, バックサイド停止
 スライドターン

(B) 実技テスト

使用ゲレンデ : 越水中央バーン (初級者コース)

テスト (課題) 概要 : 制動技術, 習得した技術でのスノーボードコントロールの確認

テスト結果 : 全員合格

4) 集中講義のふりかえり (スノーボード : 初心・初級班)

初心者, 初級者の本集中講義の目標は, 技術の理論, 安全対策, マナーなどを十分に理解した上でゲレンデをスライドターン等を用いスピードをコントロールしながら安全に滑走することができる技術を身につけることであった。スノーボードを初めて経験する履修者もいたが, 4日間の集中講義で上記の目標を全員が達成し, 基礎的なカービングターンを習得するものも見受けられた。

当初の目標であった自律したスノーボーダーとして以後生涯スポーツとしてスノーボードを楽しむための基礎的な技能, 安全対策の習得が確認できた。

表3 集中講義タイムスケジュール (スノーボード : 初心・初級班)

	9:00~10:30	10:30~12:00	13:30~15:00	15:00~16:30	19:30~21:00
1日目			13:00 集合	17:00 開校式	講義
2日目	基本練習	反復練習	基礎回転	基礎回転	VTRによる振り返り
3日目	スライドターン	反復練習	スライドターン	基礎回転	VTRによる振り返り
4日目	総合滑走	反復練習	総合滑走	実技テスト	17:00 解散

指導者レッスン

自習学び合い

(5) スノーボード : 中級・上級班 計5名

1) 2日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動 : 午前 基本練習, 午後 基礎回転

主な使用ゲレンデ : トガッキーコース (初心者コース), 越水中央バーン (初級者コース)

お仙水コース (初中級者コース), めのうコース (中級者コース)

白樺コース (中級コース)

主な活動 (午前) : 基礎スライドターン, フロントサイド停止, バックサイド停止

主な活動 (午後) : 基礎スライドターン, フロントサイド停止, バックサイド停止, 横滑り
 カービングターン

(B) 夜間のミーティングでの活動

・スキー場でのマナー, エチケット, 安全対策の確認

2) 3日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動 : 午前 応用ターン, 午後 総合滑走

主な使用ゲレンデ : トガッキーコース (初心者コース), 越水中央バーン (初級者コース)

お仙水コース (初中級者コース), めのうコース (中級者コース)

しゃくなげコース (中級者コース), 白樺コース (中級コース)

シルバーコース（上級者コース），パラダイスコース（上級者コース）
 チャンピオンコース（上級者コース）

主な活動（午前）：基礎スライドターン，フロントサイド停止，バックサイド停止，横滑り
 カービングターン，スイッチ切り替え

主な活動（午後）：午前と同様

(B) 夜間のミーティングでの活動

- ・疲労状況の確認とストレッチング
- ・個人撮影されたVTRでの振り返りを通しての動きの確認
 (特に前後左右の重心位置とバランス)

3) 4日目の活動内容

(A) ゲレンデでの活動：午前 総合滑走，午後 総合滑走

主な使用ゲレンデ：トガッキーコース（初心者コース），越水中央バーン（初級者コース）
 お仙水コース（初中級者コース），めのうコース（中級者コース）
 しゃくなげコース（中級者コース），白樺コース（中級者コース）
 シルバーコース（上級者コース），パラダイスコース（上級者コース）
 チャンピオンコース（上級者コース）

主な活動（午前）：基礎スライドターン，フロントサイド停止，バックサイド停止，横滑り
 カービングターン，スイッチ切り替え

主な活動（午後）：午前と同様

(B) 実技テスト

使用ゲレンデ：白樺コース（中級者コース）

テスト（課題）概要：習得した技術でのスノーボードコントロールの確認

テスト結果：全員合格

4) 集中講義のふりかえり（スノーボード：中級・上級班）

技術の理論及び実践を高いレベルでこなしただで、戸隠スキー場のほぼすべてのコースを安全に滑走できる技術を身につけることができた。安全対策、マナーなども十分に理解し、実践することができるようになっている。今後の課題としては、修得した安全対策、マナーなどの知識、スノーボードの技能を指導者として伝える技能を身につけることが望まれる。

表4 集中講義タイムスケジュール（スノーボード：中級・上級班）

	9:00~10:30	10:30~12:00	13:30~15:00	15:00~16:30	19:30~21:00
1日目			13:00 集合	17:00 開校式	講義
2日目	足慣らし	基本動作の確認	基礎回転	基礎回転	VTRによる振り返り
3日目	振り返り	応用ターン	基礎回転	総合滑走	VTRによる振り返り
4日目	振り返り	総合滑走	総合滑走	実技テスト	17:00 解散

指導者レッスン

自習学び合い

(6) 集中講義の全体のふりかえり

上記の通り、集中授業ではスキー班2班、スノーボード班2班、計4班がそれぞれ技術の向上に努めることができた。また、ゲレンデでの実習のグループ行動や宿舎での生活場面での集団行動の中でも、一般常識的なエチケット、マナーが涵養されるとともにリーダーシップ、メンバーシップ、コミュニケーション能力等が向上した。

3.4 評価及び単位修得状況

集中授業に参加した履修者は、技術目標を明確にもち、集中講義の中でも真摯にそれぞれの課題や目標に向かって努力する姿勢が見られた。またスキー・スノーボード技術の修得も3泊4日の集中授業の中でそれぞれの技術を向上、上達させることができていた。そのため、集中授業に参加したすべての履修者が高い評価を受け単位を修得している。

4. 授業運営上の課題と改善点

上記のような振り返りを基礎とし、授業運営上の課題としては、下記の点があげられる。

①指導者としての安全管理に関する心構えの涵養

教職課程の「教科に関する科目」として、安全管理、事故対応、応急手当、応急処置などについても事前授業等で取り入れる必要があると思われる。スキー・スノーボードはスポーツの中でも事故や怪我の大変多い種目と言える。いかに事故に合わないかを判断する知識・能力や事故に遭ってしまった時の判断、手当は身につけなければならないものと思われる。アクティブ・ラーニングの観点からは、実際の事故事例報告を収集し分析し、学生間で事例報告や討論することなどにより、事故回避についての心構えを涵養することにつながる。また応急手当、応急処置に関しては、「救急処置法」等関連科目との連携も必要である。

②「自学・学び合い」(アクティブ・ラーニング)の評価・振り返り

本集中講義では「指導者レッスン」の他に履修者同士による「自学・学び合い」の時間帯をとることを講義の特徴としている。この取り組みは「指導者レッスン」での課題を振り返りながら履修者が主体的な学びを深め、他のメンバーの技術を伸ばしながら自らの技能を客観視する上で重要な経験になっている。また、履修者内のコミュニケーションを高め、リーダーシップやチームワークを醸成する上でも効果が高かったと考える。本「スキー・スノーボード研修」では、「自学・学び合い」の時間帯を上記のような効果を伴う重要なアクティブ・ラーニングの機会と位置づけ、①習得学習を基礎とし、②活用学習に発展させる授業展開を意図している。

田中(2016)は、①習得学習の活動系列モデルとして、第1段階：学習課題の提示→第2段階：解決の見通し→第3段階：自力解決→第4段階：協働解決→第5段階：一斉検証→第6段階：まとめと振り返り¹²⁾を、②活用学習の活動系列モデルとして、第1段階：学習課題の提示→第2段階：既有知識・技能の想起→第3段階：解決・創作・実践→第4段階：発表と検証・考察→第5段階：まとめと評価¹³⁾を提示している。

集中講義での「自学・学び合い」の役割として、①習得学習の活動系列モデルでの第3段階：自力解決、第4段階：協働解決、②活用学習の活動系列モデルでの第3段階：解決・創作・実践、第4段階：発表と検証・考察の機会と捉えているが、それが意図通りに履修者によって活用されているか客観的な把握・分析がなされていないのが現状である。履修者の学びを深める意味でも、今後アンケートや振り返りシート等を用

いた学生自身の集中講義中の活動の振り返りを通して、評価・振り返り・改善を行い効果を検証することが重要であると考ええる。

引用・参考文献

- 1) 駿河台大学現代文化学部教務課 (2017年) 2017年度駿河台大学現代文化学部履修ガイド. 駿河台大学教務課. 51頁
- 2) 駿河台大学教職課程委員会 (2017年) 2017年度教職課程履修ガイド. 駿河台大学学務部教務課. IV-38頁
- 3) 中央教育審議会, (2012) 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて (答申) 文部科学省. 37頁
- 4) 同上書. 9頁
- 5) 内閣. (2013) 閣議決定 教育振興基本計画. 45頁
- 6) 中央教育審議会. (2015)教育課程企画特別部会 論点整理. 文部科学省. 18頁
- 7) 田中博之. (2016) アクティブ・ラーニング実践の手引き-各教科等で取り組み「主体的・協働的な学び」. 教育開発研究所. 35頁
- 8) 駿河台大学現代文化学部教務課 (2017年) スキー・スノーボード研修シラバス. 駿河台大学ポータルサイト. <https://p.surugadai.ac.jp/camweb/top.do>, (参照日 2017年8月31日)
- 9) 戸隠神社 (2008年) 戸隠神社の歴史. 戸隠神社 <http://www.togakushi-jinja.jp/shrine/history/index.html> (参照日 2017年8月31日)
- 10) 一般社団法人長野市開発公社 (2013年) 戸隠スキー場開場50周年記念パンフレット. 戸隠スキー場50周年記念ページアーカイブ. <http://www.togakusi.com/50th-special/anniversary.html> (参照日 2017年8月31日)
- 11) 一般社団法人長野市開発公社 (2016年) 戸隠スキー場コースマップ. 妙高戸隠連山国立公園戸隠スキー場. <http://www.togakusi.com/course>. (参照日 2017年8月31日)
- 12) 田中博之. 前掲書. 67頁
- 13) 同上書. 84頁